

## 平成 29 年度第 1 回練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会 要点記録

- 1 開催日時 平成 29 年 10 月 13 日（金）午後 3 時～4 時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎 9 階 901 会議室
- 3 参加者 ボランティア日本語教室等 24 名、地域振興課長、国際・都市交流課長、国際・都市交流担当係長
- 4 事務局 2 名
- 5 内容および配布資料
  - (1) 練馬区の事業について
  - (2) 各参加団体から
  - (3) 今後の連絡会について<配布資料>
  - 資料 1 練馬区における多文化共生推進事業（平成 29 年度）
  - 資料 2 連絡会について
- 6 発言内容（要旨）

（地域振興課長）挨拶

練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会ということで地域振興課では多文化共生を担っている。練馬区の外国人区民は平成 24 年 1 月 1 日時点で 12,800 人程度、今年（平成 29 年）の 1 月 1 日時点では 16,400 人となっており、最新の数字では 17,000 人を超えている。この 5 年間で 3,600 人増加している。この 5 年かの中で特に平成 27 年から 28 年が 1,100 人程度、平成 28 年から 29 年が 1,800 人程度増加しており、この 3 年間で急増している。この状況の中で皆様には様々な場面で外国人区民の方と向き合っていたいでいる。人数も増え、それぞれが抱える悩みも複雑化していることも感じているのではないかと。区としても急増した外国人区民のニーズをしっかりと受け止めていきたいと思っている。区の外国語相談窓口でも様々な悩みを聞かせていただいている。この個別の悩みにどのように応えていけるか、区だけではなく皆様と一緒に、また皆様同士や他の行政機関やボランティア団体とどのように連携していけるのかということについて話していければと思いこの連絡会を設置した。現場の声を率直にお伝えいただければと思う。

（国際・都市交流課長）挨拶

現在国際都市交流ということで、北京市の海淀区とオーストラリアのイプスウィッチ市と友好都市関係を結んでいる。国内では長野県の上田市と交流している。国際・都市交流課ではこれら 3 つの自治体との交流事業や様々な支援・協定等を行っている部署と

なっている。この機会に色々なご意見をいただければと思っている。

(事務局)

今回の会議は今年の3月に開催した練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会準備会という形でお集まりいただいた皆様からご意見をいただき、このような形で年に2回程度開催するというご了解いただきお集まりいただいた。

この会議で司会進行をしたい方はいらっしゃるか。希望者または推薦したい方がいらっしゃらないということであれば、このまま引き続き区側で進行させていただく。(希望・推薦ともなし)

(事務局)

資料1 練馬区における多文化共生推進事業(平成29年度)沿って説明

(事務局)

各団体から一言いただきたい。

(参加団体)

日本語の指導もするが、中国からの帰国者の3世、4世の方々の支援という役割が強い  
ため、宿題を見ることや学校での困りごとや大学や就職の相談等にも対応している。最近  
は中学3年生と小学6年生の帰国者が多く、中学3年生が11名で中学生をあわせて21名  
在籍している。高校生については大学の入試の書類の文章の確認をする等のこともしてい  
るので土曜日の活動日以外もすべて相談に対応している状況。このような状況であるので  
月に1回でも参加可能な方がいればぜひ参加していただきたい。会の趣旨を理解してい  
ただける方であれば仕事をしている方でも大歓迎。

外国人が増えるということは子供も増えるということなので、このことを区にも意識  
していただきたい。

(参加団体)

大人だけの教室で、1990年に立ち上がった練馬区で最も古い教室。金曜日の午前中に  
上石神井北地域集会所で活動している。スタッフは11名で男性が1名でその方以外は女  
性。生徒は14,5名で中国の方が最も多い。明るく和気あいあいと活動している。スタッ  
フの入れ替わりはほとんどなく、ほぼ全員がベテラン。お休みするスタッフは少ないの  
で飛び込みで新しい生徒が入ってきても困ることはない。スタッフ全員で助け合いなが  
ら活動している。

(参加団体)

講師は男性 2 名女性 2 名の 4 名で活動している。スタッフが不足しているので養成講座からの配属を希望したが、昨年度は配属されなかった。1 人の講師に対して 4,5 人の生徒を教えている。生徒はほとんどが中上級レベルだが、まれに全く話せない方が参加する。講師が少ないことから、中上級の方と初級の方を同時に教えなければならいため、初級の方にしっかりと教えることができず、やめてしまうことがある。初級に対応するためにも、養成講座から講師の配属をぜひお願いしたい。生徒は平均 10 名程度と小規模な教室でとても仲が良く和気あいあいと活動している。

(参加団体)

生徒は 20 名弱で講師は 10 名。初級が半数。全く日本語ができない生徒については 1 対 1 で指導し、ある程度話せるようになってからグループ学習に移行している。生徒の職業は英語の講師や日本人男性と結婚した主婦、レストラン等で仕事している方が多い。今年増えているのがワーキングホリデーで日本に来ている若者。最近生徒が増加傾向なので、生徒が多い日には苦勞するが何とか運営できている状況。現在利用している施設が、今後大規模改修工事を控えているため、その間の会場の手配が問題となっている。

(参加団体)

創立後 20 年経過している。学習者数には波があり、とても多い時と少ない時がある。現在はおおむね 30 名が在籍しており、11 名のスタッフで教えている。初級の人から新聞記事を読んで勉強する人まで様々なレベルの生徒がいる。もう少しスタッフ数が多ければきめ細やかな指導ができるが、現在の人数では生徒とスタッフのマッチングに苦戦している。会場の立地はとても良いが、使用料が高い。在籍者数が少ない時には会費のやりくりが出来ず存亡の危機にまで脅かされたが、都への助成金の申請が認可され、なんとか持ちこたえた。生活のために日本語を必ず習得しなければならない方々の支援をしていきたい。

現在は学習者が増加している。韓国からのワーキングホリデーで来た若者や中国からくる女性で子連れの方、タイから来た方が増加している。ネパールやヨーロッパの方は少ない。

教室のスタッフの高齢化に問題意識を感じている。若い世代の方々に入っていただいで教室が活性化すれば良いと思っている。

(参加団体)

練馬区では数少ない夜間教室の 1 つ。時間の関係もあって子連れの生徒はほとんどいない。生徒在籍数は 50 数名で出席率は 7 割程度。ここ 2 か月で新たに参加した生徒が 18 名と多かった。手一杯だが何とか運営できている。家庭の主婦や学校の先生など働いている方が多い。数は少ないが中高生も参加している。みな真剣に勉強に励んでいる。

入門から上級まで八つのランクを設けて学習させている。月に1回スタッフのミーティングを行い、日本語教授法等について議論している。また、年に1回交流会を開催し、生徒とスタッフの親睦を深めている。

(参加団体)

光が丘で水曜の夜に活動しており、創設後25年が経過した。参加する生徒の職業や状況などは様々。最近では技能実習生が増加している。職場から日本語検定を受けるよう指示されている方が多いようである。

(参加団体)

杉並から練馬に移転して5、6年が経った。地域の中に溶け込むための活動をするのが卒業要件になっている。地域の英語クラブの方々と英語を通じた文化交流活動や南田中図書館における英語で読み聞かせを実施したりしている。読み聞かせは大変盛況な様子なので、参加する生徒数も増やしている。放課後の学童保育にも参加させていただいている。すべて生徒主体で活動している。2020年以降文部科学省が教育改革を推し進めていくようで、地域の学校との交流も盛んになっていけば良いと考えている。若い人だけでなく、お年寄りとの交流の機会も増やしていきたい。

(参加団体)

海外への移住者を訓練して送り出すための団体として創設された。1897年に創設され、大正12年にブラジルへの移住者を訓練する場所として練馬区小竹町に移った。戦後ブラジルからの移住者を送り出し、1970年代になって移住者がいなくなった後は、空いた寄宿舍の跡を留学生や日系2世3世を受け入れる場所として生まれ変わった。現在は13か国から来た約70名の留学生が寄宿舍にいる。現在短期滞在の留学生が非常に増えている。短期滞在は比較的簡単に日本での留学を経験できる点は良いが、日本語が全く話せるようにならない。大学の授業は全て英語で行われ、日本語を勉強する時間がとても短い。挨拶を覚えた程度で本国に帰る生徒が少なくないため、日本への留学としてこの状態で良いのか疑問を感じることもある。短期の留学生の中で日本語を本気で勉強したいと思っている生徒がいても、大学のカリキュラムが詰め込まれているため日本語学習に時間を割けない。このような学生をサポートしていきたいが、日本語のレベルもさまざまであるため、難しい。私たちが日本語の指導でサポートできることには限界があるので、ボランティア日本語教室の皆様や地域の方で、力を貸していただけの方がいれば、ぜひ足を運んでいただきたい。地域の役に立てることがあれば協力していきたい。

(参加団体)

国際交流のつどいでパラグアイの紹介をさせていただいている。スペイン語を勉強し

たい方がいればぜひ声をかけていただきたい。

(参加団体)

火曜日の午後活動している。他の教室と同じような課題を抱えている。スタッフ 12 名で 30 名弱の生徒に教えている。もともと子連れの生徒を受け入れる教室で、現在も受け入れを続けている。

(参加団体)

土曜日に活動している。現在学習者数は 50 名程度。中国の方が最も多い。レベルは様々。時期によって増減が激しいため教室運営に苦労している。それぞれのスタッフが少しでも日本語が上達するように懸命に指導している。月に 1 度勉強会を行っている。

(参加団体)

講師は 7 名で学習者は 15 名前後。

(参加団体)

講師は 7 名で学習者は 15 名前後。90 分の授業を時間をずらして 2 コマ実施している。原則 1 対 1 でレベルに合わせて教えている。スタッフは 12 名で生徒は 17 名。生徒のうち小学生が 2 名、中学生は 1 名在籍している。生徒とスタッフの需給バランスをとるのが難しい。生徒が多すぎる時期もあれば少なすぎる時期もある。レベルは様々。

(参加団体)

一番の課題は場所取り。現在学習者が増えており、毎回参加者は 30 名を超える。場所が確保できないときに 30 名が収容できる会場を確保するのにとても苦労している。10 月はいくつかの会場を転々としながら活動した。このような状況では日本語が全くできない学習者に情報を伝達することが非常に難しい。レベルが様々なので、スタッフと生徒のマッチングが難しい。他の教室が抱えている子供の問題については練馬区だけで検討するのではなく、都レベルで新たな対策を検討していく必要があるのではないかと感じている。

(参加団体)

外国語相談窓口で日本語を勉強したい方が相談に来ると、各教室の先生方に連絡をさせていただいている。本日各教室のお話を聞いて、各教室の熱意にとっても感動している。

(参加団体)

週に 1 回金曜日に相談員として勤務している。普段は中学校と小学校で日本語の指導

をしている。小中学校の生徒には土曜日のこども日本語教室を紹介しているが、本日各教室のお話を聞くことができたので、ボランティア日本語教室の紹介もしていきたいと考えている。

(参加団体)

練馬区は日本語教室の数が多いので、外国語相談窓口で案内する中でとても誇らしく感じている。

(事務局)

資料2「連絡会について」に沿って今後の連絡会について説明